

世界遺産へ向けて・その2ー3月～4月にイベントが3つあります！

**3月17日(土)** 平泉寺世界遺産講演会2012  
勝山市教育会館ホールで開かれます。

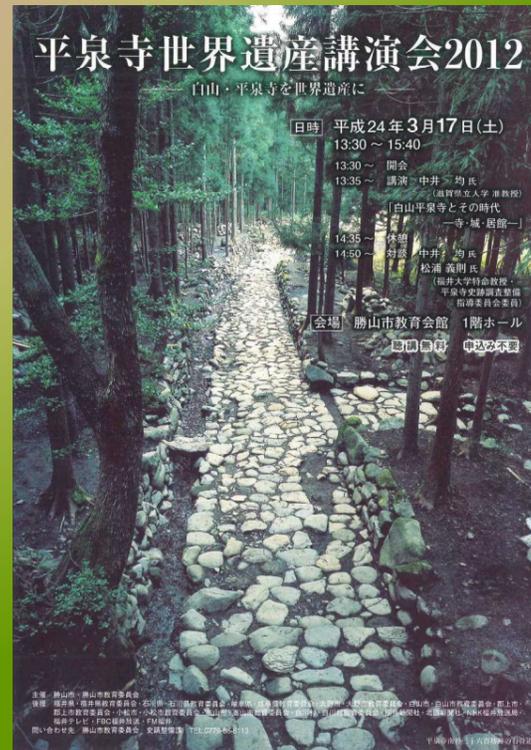
午後1時30分からは、滋賀県立大学准教授である中井均氏の講演会があります。テーマは「白山平泉寺とその時代ー寺・城・居館ー」です。

つづいて午後2時50分からは、中井均氏と福井大学特命教授松浦義則氏との対談があります。

城と寺について、考古学の視点から長年ご研究されてきた中井氏。古文書などから中世の平泉寺について探求されてこられた松浦氏。お二人の対談から、どのような“平泉寺の時代像”が生み出されるのか!?

乞うご期待!!

(申し込み不要・聴講無料)



**3月24日(土)** 白山文化研究会 第3回例会  
勝山市教育会館で開かれます。白山曼荼羅を中心とした宗教絵画のご研究をしておられる黒田晃弘氏に、研究発表をしていただきます。どなたでも聴講できますので、ぜひご参加下さい(聴講無料)。研究発表の後に、「平泉寺を世界遺産に！」支援団体設立準備会も行います。こちらにもぜひご参加下さい。

日程：【研究会総会】 午後1時30分～ ※研究会会員の方のみです  
【研究発表】 午後2時00分～ ※どなたでも聴講できます  
テーマ「白山曼荼羅とその場所性」 黒田 晃弘 氏  
【お知らせ】 午後3時15分～4時(終了予定)  
「平泉寺を世界遺産に！」支援団体設立準備会の立ち上げについてお話ししますので、会への加入を希望される方はご参加下さい。

場 所： 勝山市教育会館3階 第1研修室 (勝山市元町1丁目5-6)

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版  
No.44 (2012年2月号)

【発行】 勝山市教育委員会史蹟整備課  
【発行日】 平成24年2月23日  
【ご意見・ご要望は下記まで】  
電話:0779-88-8113(直通)  
メール:shiseki@city.katsuyama.lg.jp

世界遺産へ向けて  
ー白山・平泉寺を世界遺産に!!ー  
イベントが3つあります! ★4ページもごらん下さい

**4月17日(火)**

平泉寺世界遺産講演会  
ー白山・平泉寺の世界遺産登録に向けてー

ユネスコ前事務局長

松浦晃一郎氏 きたる



ユネスコ前事務局長の松浦晃一郎氏をお招きして、白山・平泉寺の世界遺産登録の方向性について考えます。

日 程： 午後6時30分～ 松浦晃一郎氏講演会  
午後7時35分～8時 松浦晃一郎氏と山岸正裕勝山市長の対談  
場 所： 勝山ニューホテル  
聴講無料、定員200名(要申し込み、下記まで)  
勝山市教育委員会史蹟整備課 TEL:0779-88-8113

松浦晃一郎氏 1937年山口県のお生まれ。1959年東京大学法学部中退、外務省に入省されました。1961年米国ハヴァフォード大学経済学部卒後、駐仏大使、世界遺産委員会議長などを歴任。1999年から2009年まで日本人として初めて、第8代ユネスコ事務局長を務められました。2009年11月14日にユネスコ事務局長を退任。2011年に立命館大学より博士号(学術)取得。著書に『世界遺産ーユネスコ事務局長は訴える』講談社、『ユネスコ事務局長奮闘記』講談社、『国際人のすすめ』静山社ほか。

天正2年(1574)4月14日、大野・南袋・北袋・七山家(現在の勝山市)の一向一揆が集まっていた。「村岡山を平泉寺がうばって城をつくれば、山中の田畑が荒れてしまうだろう。平泉寺より先に村岡山に塀や柵をつくって、今夜中に城にしてしまおう」という提案がだされました。「それはよい考えだ」ということで、一揆たちは村岡山を城に変えてしまいます。「田畑が荒れる」とは、戦闘状態になると、お互いに敵に食糧を与えないために稲・麦を刈り取することを意味しています。一揆たちは、自分たちの食糧を守るために、村岡山にみずから城を築いたのです。

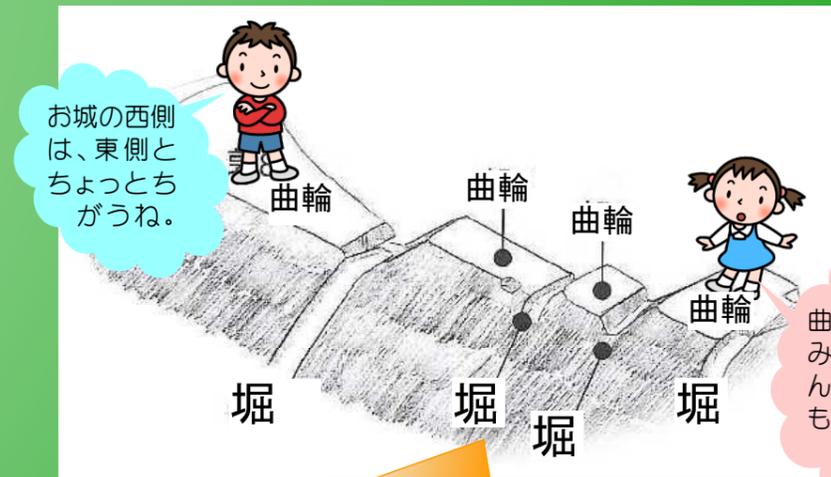
翌15日、平泉寺は、村岡山に城が築かれ、一揆勢が立てこもっていることを知り、村岡山を攻撃します。しかし、これが中世平泉寺の「最期」につながっていくことになります。



勝山市中心部から見た村岡山城跡。左奥に見える山は野津又城の推定地。高尾山の山頂にあります。一向一揆の最後の砦だと伝えられています。さらに奥の山なみは加越国境の山地です。この山なみを越えると加賀国(今の石川県)。中世平泉寺の時代には、加賀一向一揆の本拠地でした。

さて、現在、村岡山に登ると、山頂にはたいへん立派な城跡が残っています。といっても、白亜の天守がそびえ、御殿や武家屋敷が建ちならび、高い石垣が取り囲むわけではありません。そのような城の姿は、安土・桃山時代から江戸時代の城のイメージです。村岡山は、それより古い、中世の城跡です。主な構造は、石垣の無い素掘りの堀と、土を盛り上げてつくった土塁、兵が立てこもるために平らに造成した平坦地(曲輪)などです。

一見、何も派手なものはなく、土や草の生えた山のように見えます。しかし、そこには、中世の人たちが「守る」「攻める」ことにふりしぼった知恵がちりばめられています。



今、村岡山で見える城跡は、一向一揆がつくった城を、少し後に、一向一揆を制圧した織田信長の家臣、柴田氏が改修したものではないか

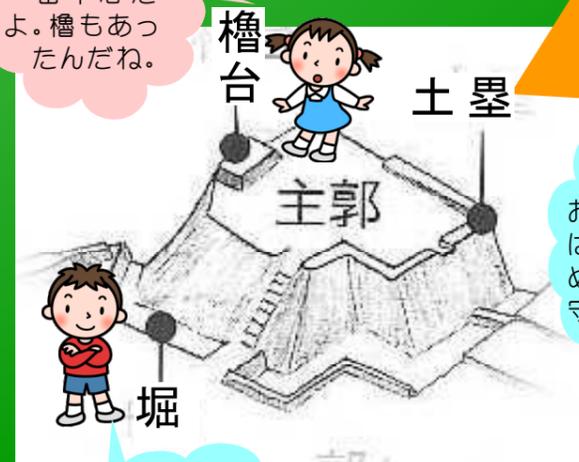
という説があります。出入口(虎口)や主郭には、かなり手の込んだ部分があり、柴田氏の時に手が加えられたのではないかと考えられています。

曲輪が階段みたいにならないでるね。堀もあるよ。



主郭(しゅかく)は、お城の一番中心だよ。櫓もあったんだね。

堀と土塁がじゃまで、まっすぐお城に入れないよ。



お城の入口は、敵が攻めてきても守る知恵があるね。

四角く折れ曲がった堀がある！これも守りの知恵だね

